

2023年3月25日

## 2022年度航空部 卒業生送別会

足立修一

本日は、航空部4年生の送別会というおめでたい席で、私の部長退任のご挨拶をさせていただけること、たいへんありがとうございました。

私がみなさんの前でご挨拶するのは今日が最後なので、航空部の思い出を交えて、少し長いお話をさせてください。

私は1986年に慶應の博士課程修了後、東芝総合研究所を経て、宇都宮大学に勤務していました。2001年から慶應の理工学部物理情報工学科で非常勤講師を務め、2006年4月から、慶應の教授として母校に戻ってきました。慶大に採用されるにあたり、2005年8月に物理情報工学科の教授たちのヒアリングがありました。そこに、前任の部長である南谷晴之先生がいらっしゃいました。南谷先生は、私が電気工学科の学生だったときの先生の一人で、南谷先生の電気回路のTAを私が務めたこともありました。その席での南谷先生のコメントは、「足立君は埼玉に住んでいるのですね、利根川に近いですね」でした。そのときは、なんのことだか意味がわかりませんでした。

2006年4月に慶應義塾大学物理情報工学科に採用されました。南谷先生とお話したところ、2009年3月に先生は定年になるので、その

後、航空部の部長に就任してほしい、とのことでした。あの質問は、そのためだったのだと、そのときに気づきました。私は航空部とはほとんど「ご縁」がありませんでした。電気工学科の同級生が航空部だったこと、湘南高校の同級生が早稲田の航空部員だったことくらいの接点しかありませんでした。

最初、私は部長就任をお断りしましたが、いろいろ考えた末に、お引き受けすることにしました。慶應義塾の中に40数部しかない体育会の部長になることは、非常に名誉なことですよ、と同僚から背中を押されたことが大きかったです。

部長就任の前年の12月末の主将交代式に招待されました。会場は秋葉原の「肉の万世」でした。会場には、元監督の村井さんがニコニコ笑っていらっしゃいました。しかし、その翌年の2月、村井さんが海外の事故で他界されます。3月の送別会にも招待され、出席しました。知花さんが全日本で優勝したときです。4月からは、急遽、小濱さんが監督になられました。非常にあわただしい過渡期に部長になってしまい、どうなることかと思いました。

新年度になり、2009年4月に第6代航空部部長に私が就任しました。当時、航空部80年の歴史で、部長が5名しかいなかったことの重さを実感しました。その年は、星野主将、小林主務などの体制のもと、すべての大会で団体、個人優勝を果たす「5冠」を達成してくれました。こんなに強い体育会の部が慶應にあることを初めて知りました。その次の年に、栗山さんが監督に就任されました。

航空部の部長の仕事は、「まず、存在していること、そして、現役教授として航空部と塾の間をつなぐこと」です。自分の専門分野の研究と違って、私は航空部員の技量を指導することはできませんし、グライダーに関する何の経験も持っていません。そのため、平時における私の役目は、書類に印鑑を押すくらいです。したがって、ほとんどの航空部員は、私のことを知らないでしょう。しかし、ひとたび、事故などのインシデントがおこると、部長の役目は重大になります。私が活躍する場面が生じることは、実はよくないことなのです。そのため、知らない間に部長に就任して、知らない間に新しい人が部長になっているというのが、自然な姿なのだと思います。

そんな中で、私ができることは航空部の広報であり、グライダー競技を広く知ってもらおうと考えました。そのために、足立研 HP に航空部の記事を書き、航空部の写真をおいて宣伝しました。足立研 HP は 1 日平均 300 名くらい、多いときには 1000 名を超える閲覧があるサイトで、いろいろな人が見ている、比較的影響力が大きいサイトなのです。また、伊藤公平塾長は、私と同じ物理情報工学科の教授で同僚なので、以前から、航空部の活動についてはよく理解してくれています。

部長に就任してから 14 年間のシーズンにおいて、大きな事故が起きることなく、航空部員たちが安全に飛行してくれたことを、誇りに思います。そして、さまざまな大会で勝利を挙げてくれたことを大変うれしく思います。大きな節目は、2011 年の東日本大震災のときと、2020 年以降のコロナ禍でした。それらに対しても、慶大航空部員た

ちは、三田航空クラブなどと社中連携をはかり、しっかりと対応してくれました。そして、私にとっては最後のシーズンである今年度、航空部員たちはすべての大会で団体・個人優勝する「**6冠**」を達成してくれ、有終の美を飾ってくれました。本当にありがとうございます！

さて、第7代目の航空部部長を理工学部システムデザイン工学科の高橋正樹教授にお願いしました。私と研究分野が近く、航空宇宙にも詳しい先生です。高橋新部長のもと、2030年の航空部100周年を迎えられることを楽しみにしています。

ひとつうれしいニュースがあります。航空部卒業生の佐藤貴彦君が4月から、理工学部情報工学科の准教授として、慶應の教員になります。もしかしたら、高橋先生の後には、佐藤君が航空部部長になるかもしれませんね。

私事ですが、私は4月から名誉教授という称号だけでなく、特任教授という職位で、週に1～2回矢上にいます。1年間だけですが、矢上の中に居室ももらいました。矢上の廊下で理工学部の航空部員と会うことを楽しみにしています。

明治の政治家である後藤新平は、「**財（お金）を残すは下、事業（仕事）を残すは中、人を残すは上**」という言葉を残しました。14年間、航空部を見て来て、まさに航空部の指導陣は「**人を残す**」活動をされていることがよくわかりました。

最後に、吉田最高顧問、栗山前監督、正野監督、廣瀬三田航空クラブ

会長をはじめとする航空部の指導陣，三田航空クラブのみなさんに大変お世話になりました。ありがとうございました。

今後の航空部のご発展をお祈りして，私のご挨拶とさせていただきます。長い間，ありがとうございました。